

第五講 メソポタミア農耕文化の特徴

レポート講評：「なぜレバントにおける農業文明がさらなる大型化の壁に突き当たったのか？」という課題で問うたが、これは前回の授業の内容をどこまで諸君が復習しているのかを確かめるためでもあった。

気温の上昇による乾燥化、森林や草原の縮小、都市化による人口圧の増加を挙げているものが多かった。しかし、レバント地方に限定している理由を考える必要がある。レバノン山脈と地中海に挟まれた空間的な限界があることに注意する必要がある。集落の成長に合わせて農耕地を拡大していく必要があるが、そのような農耕地を拡大していく空間的余裕がレバントにはなかった。

レポート課題：メソポタミアで農業を行うには何が必要なのか。またその理由を述べよ。

メソポタミア平原と自然環境

平野部：15万平方キロ（80%が不毛の土地）

極度の乾燥

バグダッド：年平均降水量 156 ミリ（天水農業の必要量 200 ミリ以上）

潜在蒸発量 1268 ミリ

比較：京都 年平均降水量 1579 ミリ

8月の降水量 160 ミリ

6 - 9月の夏季4箇月間 降水量 0 ミリ

平均気温 32.9 - 34.8 度摂氏

8月の日陰 40 度摂氏を超える

日向 恐らく 70 度を超える

比較 京都 8月の平均気温 26.9 度摂氏

夏季の平均湿度 21 - 22%

冬季の平均湿度 67%

比較 東京 夏季の平均湿度 77 - 79%

冬季の平均湿度 57%

天水農業不可能

ティグリス・ユーフラテス川

ティグリス川：水源地標高 1150 メートル

1850 キロ

ユーフラテス川：水源地標高 3000 メートル

2350 キロ

シャトル・アラブ川：185 キロ

季節による流量の変化が大きい

ティグリス川（バグダッド付近）

9月 265 キューメックス

4月 2930 キューメックス（11 倍）

支流の合流が多く、河道が直線状

暴れ川

ユーフラテス川（ヒート付近）

9月 287 キューメックス

5月 2420 キューメックス（8.4 倍）

砂漠地帯を通るので、塩分を多く含む

水位上昇：平均で4メートル。時に10メートル。

非常に平坦な土地（海岸から700キロ内陸のバグダッドですら標高
34メートル）

ティグリス川

モースル～バラド 363 キロ／172 メートル（0.02 度）

バラド～ファオ 1037 キロ／47 メートル（0.002 度）

1400 キロ／219 メートル

比較 淀川 0.08 度

ユーフラテス川

デール=エッジール～ヒート 555 キロ/145 メートル
(0.01 度)

ヒート～河口 793 キロ/58 メートル (0.003 度)

1348 キロ/203 メートル

大量の土壌分を含む

上流の岩石・土砂を削り、巻き込みながら流れる

川床に堆積

川底が付近の平野よりも高い天井川

運河・堤防の改修の必要

大洪水が起こり易い

河川中に含まれる塩分

腹を壊す→ミネラルウォーター

炭酸カルシウム (CaCO₃)・硫酸カルシウム (CaSO₄)・

硫酸ナトリウム (NaSO₄)

3~5g/lit

蒸散・毛管現象による地下水位上昇 1日当たり1センチ

二次塩類の蓄積

11~15g/lit.

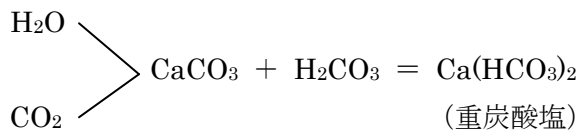
Ph 9~9.5 (アルカリ土壌)

10億トン (深さ5メートルまで) に達する

植物の育成・土壌中の微生物の活動を阻害

アンモニア分過給態化を抑制→窒素分の不足

太陽光線による化学反応



灌漑と排水の必要

水分の供給

塩分の希釈

地下水位の上昇を下げる

ユーフラテス川西岸

年間降水量 50 ミリ以下

乾燥砂漠（国土の半分）

北部 バーディヤト=フィル=イラク砂漠

南部 サフラー=アル=ヒジャーラ砂漠

窒素性土壌の欠如

オアシスを除けば不毛

アッシリア地方

年間降水量 450～750 ミリ（ステップまたはサバンナ）

天水農業可能